

第3章 望ましい環境の創造に向けて

本章では、生駒市の特性を踏まえ、本市が目指す望ましい環境像及びその基本的な目標を示します。

1 本市が目指す環境の将来像

本市は、生駒山をはじめ、里山や農地、市内に源流を持つ竜田川や富雄川の水辺など、豊かな自然に恵まれた居住環境を持つ住宅都市として発展してきました。大都市近郊でありながらも自然に恵まれているということは、本市の大きな財産であるとともに、そこで暮らす市民にとっての大きな誇りとなっています。

もう一つの大きな特長として、第2次生駒市環境基本計画で、市民・事業者・行政の三者協働で計画のプロジェクトを推進してきたように、市民の活動が活発で、市民力が高いということがあります。人口の減少が見込まれる今後においても、引き続き市民との協働でまちづくりを進める必要があります。

一方、市民アンケートの結果を見ると、市民のイメージする理想的な将来像としては、利便性の高さ、移動のしやすさが重視されているほか、「災害に強いまち」など、持続可能で住みやすいまちの姿が挙げられています。

そこで、本市が目指す望ましい環境像を次のように設定しました。

【 望ましい環境像 】

豊かな自然と市民力を活かし、
持続可能な未来を築くまち いこま

豊かな自然と市民力という本市が持つ2つの財産を活かし、住宅都市としての魅力を高め、多くの人がいつまでもここに住み続けたいと思うようなまちとなることによって、持続可能な未来を築くことが本市の目指す方向性と考えます。

目指す環境像を実現するためには、環境の保全や創造など環境分野の施策を実施するだけでなく、経済、社会面やコミュニティの形成にも効果のある取組を進め、住みやすいまちにすることが求められます。

2 望ましい環境像を達成するための4つの目標

本市が目指す望ましい環境像を実現するために、目標1から目標4の4つの基本目標を設定しました。

本計画では、その4つの目標達成のための取組を展開します。



目標 1 自然環境 豊かで多様な自然と共生するまち

本市は、大都市近郊にありながら、生駒山をはじめ、里山や農地など、身近に自然を感じられる豊かな暮らしができるまちとして発展してきました。

この豊かな自然は、本市の魅力を象徴する存在であり、大きな資源です。これを保全・活用することで、今後も持続可能な形で維持し、次世代に引き継ぐことにより、その恵みを十分に受け、人と自然が共生するまちをつくります。

目標 2 生活環境 安全・快適で資源循環型のまち

本市の空気のきれいさや周辺の静けさについては、市民の満足度も高く、住宅都市の良好な生活環境として高く評価されています。

また、これまで実施してきた市民・事業者との協働によるごみの発生抑制や再資源化に関する取組の成果として、ごみの減量や分別に対する意識は全市的に高くなっており、この協働の取組は今後も推進する必要があります。

良好な空気などの生活環境を守りながら、ごみの減量やまちの美化に取り組むことにより、安全・快適で資源を有効利用する持続可能な循環型のまちを形成します。

目標 3 地球環境 再エネの地産地消が進む超低炭素のまち

本市は、これまでも、市民団体や事業者と共同出資による地域新電力会社を設立し、再生可能エネルギーの普及に取り組むなど、大都市近郊の住宅都市として初めて選定された「環境モデル都市」として、CO₂排出量の削減など地球温暖化対策に積極的に取り組んできました。

今後も引き続き、この電力会社を核として、再生可能エネルギーの普及促進やエネルギー需要の抑制と効率的な利用などを進めることにより、再エネの地産地消が進む超低炭素のまちを目指すとともに、すでに起きている地球温暖化の適応策にも取り組みます。

目標 4 コミュニティ 環境意識と行動の輪が広がるまち

持続可能なまちをつくるうえで、最も大切とされるのが、そこに暮らす人々の環境意識の向上と行動の活性化です。

そのためには、「自然環境」「生活環境」「地球環境」のどの分野にも共通して、市民・事業者・学校等と連携して環境教育を推進するとともに、多世代が楽しみながら環境に関する活動に参加し、継続することが必要です。

このため、目標1～3の3つの目標に分野横断的に取り組む目標として、環境意識と行動の輪が広がるまちを目指します。

3 代表指標と目標値

本計画では、以下に示すように、目指す環境像を実現するための4つの目標について、目標毎にその到達度を把握するため、目標値を掲げる「代表指標」と、目標値は設定しないが、目標達成に向けた取組の推進について、その動向を把握するための参考とする「モニター指標」を複数設定します。なお、目標4については取組が多岐に渡り目標値の設定が難しいことから、モニター指標のみを設定することとします。

モニター指標では、施策を実施した結果、市民の実感はどう変わったのかを把握する指標を中心に設定しています。

指標の設定にあたっては、上位計画である生駒市総合計画とも指標及び目標値を共有するなど整合を図ります。目標値については、生駒市環境マネジメントシステムを活用した評価を行い、進行管理（PDCA）を着実にを行うことを基本とします。

代表指標

目 標	指 標	指標の説明	現状値 (2017年)	目標値 (2023年) ※中間目標年度
1 自然環境 豊かで多様な 自然と共生す るまち	緑地面積の割合	市全域に対する緑地（農地を除く）面積の割合	47.85%	47.90%
	遊休農地活用事業 で利用されている 農地面積	遊休農地活用事業で利用されている農地の面積（累計）	49,689 m ²	55,689 m ²
2 生活環境 安全・快適で資 源循環型のま ち	下水道普及率	総人口に対する下水道整備済 区域内人口の割合	69.8%	73.5%
	再資源化率	ごみ発生量のうち、再資源化 するために分別されるビン・ 缶・ペットボトル・ミックス ペーパー等の重量の割合	23.0%	28.8%
	家庭系燃えるごみ の1人1日あたり 排出量	1人が1日あたりに出す家庭 系燃えるごみの排出量	437 g	405 g
3 地球環境 再エネの地産 地消が進む超 低炭素のまち	再エネによる発電 容量の合計	市内の家庭・事業者が電気事 業者と電力供給契約を締結し た発電設備容量の合計	25,245 kW	35,145 kW
	1人あたり CO ₂ 排出量	市域から排出された温室効果 ガス排出量を算定し、各年の 推計人口で除したもの	2.47 t-CO ₂ 2016年実績	2.16 t-CO ₂ (※)
4 コミュニティ 環境意識と行動の輪が広がるまち	モニター指標のみを設定			

(※) 環境モデル都市アクションプランで掲げている中長期目標(2030年度に基準年度比35%削減、2050年度に基準年度比70%削減)を前提とした目標値です。

モニター指標

目 標	指 標
1 自然環境 豊かで多様な自然と共生するまち	「適切な土地利用により、良好な都市環境と豊かな自然が調和したまちづくりが進んでいる」と感じる市民の割合（％）（※）
	「市民、NPO、事業者が、花と緑であふれるまちに向けて取り組んでいる」と感じる市民の割合（％）（※）
2 生活環境 安全・快適で資源循環型のまち	汚水処理人口普及率（％） （参考）2017年実績：83.4％
	「環境美化の取組が進み、快適な生活環境が保たれている」と感じる市民の割合（％）（※）
3 地球環境 再エネの地産地消が進む超低炭素のまち	「再生可能エネルギーの普及が進んでいる」と感じる市民の割合（％）（※）
	「省エネルギー型の暮らしが定着している」と感じる市民の割合（％）（※）
4 コミュニティ 環境意識と行動の輪が広がるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関する出前講座の参加人数（人） （参考）2017年実績：1,594人 ・環境に関する情報の発信回数（回） （参考）2017年実績：237回 ・体験型イベント・講座の参加人数（人） （参考）2017年実績：8,724人
	「環境意識と行動の輪が広がるまちづくりが進んでいる」と感じる市民の割合（％）（※）

（※）は、市民満足度調査を実施するタイミングで進捗を把握します。

